

「拉致問題は解決するのか」

2014年05月31日

安倍首相が突然、拉致問題に関して、スウェーデンで行われた話し合いで、北朝鮮は拉致被害者と特定失踪者の再調査を約束したと発表した。続いて、菅官房長官が詳しい説明をした。調査の結果、生存者がいれば、帰国させる。調査の進捗状況に合わせて、北朝鮮への経済的制裁を緩和していくと言う。これが事実なら、拉致問題解決の大きな前進となる。

拉致、失踪者の悲劇を思う。見知らぬ所に強引に連れて行かれ、理不尽な生活を強要され、どれほど苦しみ悲しんだらうか。政府が認定した拉致被害者は17名、特定失踪者は470名もいて、その内77名が拉致濃厚とみている。大勢の人が異国で膨大な涙を流している。また、拉致、失踪者の家族の長く、耐え難い苦闘を思う。

拉致問題の解決は長年の悲願であったが、急激な進展に驚く。国際関係はギブアンドテイクで成り立っている。それが、急激に動いたことには北朝鮮の事情があるのではないか。北朝鮮は核保有国として、米国との直接対話を求めているが、無視され続けた。韓国ともギクシャクしている。唯一の支援国だった中国とも良い関係を結べていない。日本との関係を修復して、国際社会に復帰したい。また、経済的な行き詰まりが深刻な状態にあり、経済的な見返りを期待している。解説者は、そのように説明している。事情はどうであれ、拉致、失踪者が帰国できるならば、本当に喜ばしいことである。蓮池薫氏が著した『拉致と決断』は拉致時代の苦労と望郷の思いが切々と書かれていた。その行間には、拉致されている人々に被害が及ばないように細心の注意が払われている。今まで、北朝鮮との関係はしばしば裏切られてきた経緯がある。確かな手順を踏んで、解決に向かってほしい。

拉致問題に関して思うことがある。日本は、朝鮮を植民地支配下に置いて、多くの人を強制連行（拉致）した。1945年、日本の敗戦によって戦闘状態は終わった。しかし、北朝鮮とは国交はなく、未だに戦争状態が続いている関係にある。北朝鮮が日本人を拉致することはあり得る。政府は国民の命と財産を守る責任がある。その責任を果たせず、拉致されたのだから、政府は拉致、失踪者とその家族に謝罪すべきではないか。政府の謝罪の言葉を聞いたことがない。拉致、失踪者を奪還することは政府の義務である。

北朝鮮の民衆はニュースで見ると限り、貧しくて飢え、強権の下で虐げられ、悲惨極まりない生活を強いられている。権力を奢る者が国の指導者になると、その国の民衆の生活は限りなく荒んでいくことを現している。

安倍政権は権力者を縛る立憲主義をひっくり返し、国が国民を縛る、超国家主義的な政策を次々と打ち出している。安倍首相を長く国の指導者にすると、国民の生活は危うくなる。集団的自衛権の必要性を「国民の命を守る」ためであると言いながら、現実的には、沖縄県民は捨て置かれ、原発事故被災者は忘れ去られようとしているのではないか。安倍政権が拉致問題の解決の見通しをつけたとして、支持率が上がり、長期政権になることを危惧している。